

重点4 ICT活用の推進

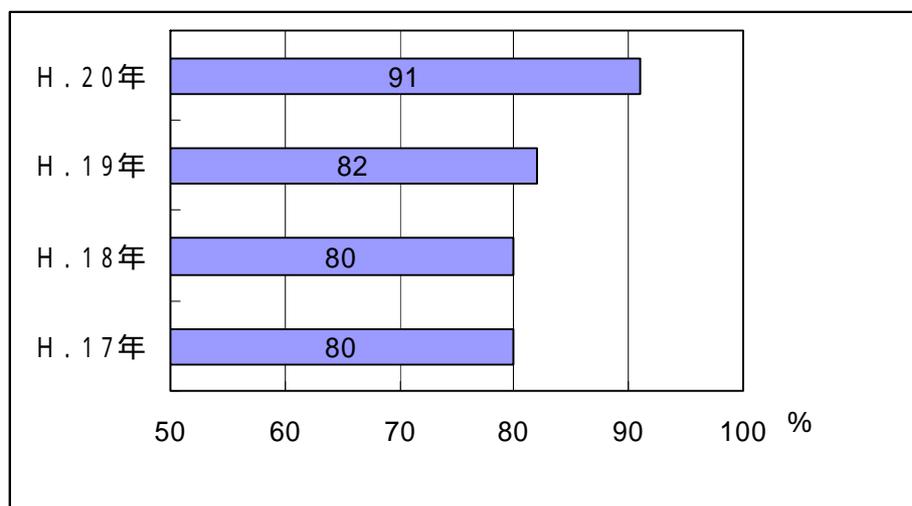
情報教育環境

ねらい

小中学校にコンピュータ等の情報教育機器を導入するとともに教員の情報教育に関する指導力を高めることで、情報活用能力を持ち、情報社会に主体的に対応していくことのできる子どもを育てる環境を整備します。

現状と課題

コンピュータを使って教科指導ができる教員の割合の推移



平成 21 年 2 月
四日市市教育委員会
「平成 20 年度
コンピュータ活用等の
実態調査」

平成 20 年度は、教職員用コンピュータの整備や、小学校での教科指導用ソフトウェアの整備、教育支援課による学校への出前研修等の効果により、コンピュータを使って教科指導ができる教員の割合が大幅に向上しました。

今後、授業での活用をさらに推進するためには、教職員への研修を行うとともに、電子黒板、プロジェクタ等の提示装置の増設と、教室へのネットワーク整備が必要となってきます。

さらに、わかりやすい授業を実現するために、コンピュータ室だけでなく、普通教室でも ICT を活用した授業を行えるように取り組んでいくことが必要です。

今後の改善方針

情報教育機器の更新と校内 LAN 整備を含めた活用場所の拡大

普通教室や特別教室をネットワークで結ぶ校内 LAN や電子黒板等の提示装置の整備など、総合的な ICT 環境の整備を図っていきます。

様々な教育活動における情報教育機器の活用を推進

コンピュータ室での学習だけでなく、学力向上のため、普通教室でより効果的に情報教育機器の活用を推進していく必要があります。そのために、より実践的な情報教育研修講座や学校への出前講座等を実施し、様々な教育活動の場面での情報教育機器の活用能力を高めていきます。

その他の主な取組状況

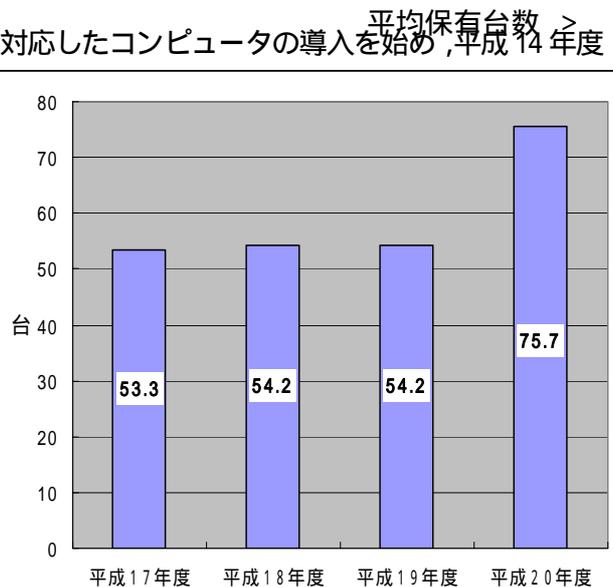
教育用コンピュータの整備状況

平成10年度からマルチメディアとネットワークに対応したコンピュータの導入を始め、平成14年度にすべての小中学校(62校)に児童生徒用コンピュータおよそ40台、教師用コンピュータ1台、管理用サーバ1台、図書共有ネットワーク用コンピュータ1台を配備しました。

平成20年度には、全小学校のコンピュータ室の機器・ソフトウェアの更新、および全小中学校の教職員用コンピュータと、これらを使用して提示するためのプロジェクタや電子黒板の配備を行いました。

小学校のソフトウェア更新時には、学力向上のための各教科用ソフトウェアを導入しました。これらのソフトウェアは、コンピュータ室での使用だけでなく、職員室の教職員用コンピュータでも利用できるものを導入し、教材研究や教室での提示用として活用できるものとなりました。

<小中学校一校あたりのコンピュータ



(平成20年3月 文部科学省
学校における情報教育の実態等に関する調査
平成20年度データは教職員用コンピュータを加えた値)

教員のコンピュータ活用と情報教育研修講座

教員向けに、情報モラル教育、授業における情報活用、学校ホームページの作成・運用などの情報教育研修講座を開設し、情報教育全般における指導力の育成を図っています。平成20年度には、一部の学校で新規導入機器・ソフトウェアを有効に活用するための研修を設定し、教育支援課出前講座として実施しました。

< 情報教育研修講座数の推移 >

